

学会企画シンポジウム 1

原発事故と子どもの発達およびメンタルヘルス

企画・司会・話題提供：氏家達夫（放送大学）

話題提供：佐藤由弘 #（大熊町立熊町小学校）

話題提供：前田正治 #（福島医科大学）

話題提供：水木理恵 #（福島医科大学）

キーワード：原発事故，発達，メンタルヘルス

【企画趣旨】

東京電力の原子力発電所事故から 10 年が経過した。チェルノブイリ事故の経験にもとづけば，原発事故は福島の子どもの発達やメンタルヘルスに重大な影響を与えていると予想できる。福島県の太平洋側に位置する相双（相馬と双葉）地域は，原発の立地地域であり，原発周辺から多くの住民や子どもが避難を余儀なくされた。また，巨大津波の被害も受けた。原発事故や津波による避難生活は，強いストレスを子どもに与えた。原発事故で環境に放出された放射性物質は，原発周辺だけでなく，相馬地域や福島県の中央部に位置する中通りに降下し，放射能汚染を引き起こした。放射線による健康影響は公的には否定されているが，原発周辺から避難した人々だけでなく，相馬や中通りに居住する人々の不安はいまだに十分払拭されていない。多くの親は，子どもへの健康影響を心配し，そのことは子どもの発達やメンタルヘルスに影響を及ぼすことが懸念されている。

このシンポジウムでは，原発事故を経験した子どもの発達やメンタルヘルスのこれまでの状況や現状について，3 つの視点から話題提供し，この問題についての今後の展望を行う。

1 つ目の視点は，小中学校の教育現場からのものである。この 10 年を振り返って，教育現場で何が起こり，どのような対応が行われたのかについて話題提供する。2 つ目の視点は，避難にともなって子どもに何が起こったかである。避難指示区域の子どもに対する調査や支援について話題提供する。3 つ目の視点は，直接事故の影響を受けていない子どもにどのような影響があったかである。親の不安やリスク知覚が子どもの発達やメンタルヘルスに及ぼす影響について話題提供と議論を行う。